いじめ問題を考える パート2

特集

学校・家庭・社会の取り組みが子どもを救う

アンケートの設問は、大きく3つの分野（A、B、C）に分かれ、それぞれの設問のなかで最も大事であると考えられるもの3つを選び出す方法です。また、回答と合わせて意見や体験も付記されたものが189通もありました。アンケート結果を要約しますと、設問A（学校における取り組み）で、最も回答数が多かったのが、1位「おもいやりの心を育てる心の教育や相手の立場に立って考える人権教育の徹底」、2位「教師と児童生徒の信頼関係を築く取り組み」、3位「生命の尊厳や尊重の教育の徹底」の順であります。設問B（家庭における取り組み）で最も多いのが、1位「おもいやりの心や相手の立場に立って考える態度を育てる努力」、2位「人間としての基本的な生活習慣や態度（しつけ）を身につけさせる努力」、3位「日常から親と子の対話時間をつくるなど、信頼関係を築く取り組み」であります。つぎに設問C（社会における取り組み）では、1位「心の教育を重視する教育制度の充実、2位「学歴偏重社会の影響を社会全体で考え直す取り組み」、3位「情報化社会（特にマスコミ）の子どもに対する影響を社会全体で考え直す取り組み」であります。設問のその他での回答につきましても、3ページのアンケート結果グラフ下段の説明欄のなかで示してありますのでご覧ください。

貴重なご意見

◆家庭に関する意見

まず、家庭での取り組みについての考え方では、「親の生活態度が子どもに鏡に写し出されたように反映される。だから、子どものしつけは親の反省が先決。そして、日ごろの親の夫婦仲がよくないといけない。また、親子のコミュニケーションが大切で正しい親の愛が必要」ということにまとめられます。このような意見は40件ありました。また、少数意見として、「子どもの個性を大切にする」、「打ち込めるようなスポーツなどを通し、いじめに負けない人間に育てる」、「子どものよいところや優れたところをほめることが大切」、「他人の痛みが分かる子どもに育てる」、「子どもの変化を見逃さない」という意見もありました。

◆学校に関する意見

学校教育に関するご意見は多くありました。特に多かったのは、「いじめを絶対にゆるさないという基本を、校長を含めた教師の皆さんが、毅然（きぜん）とした態度で取り組むことが必要」という内容の意見（17件）でした。つぎに、「ゆとりが生まれるような教育制度の変換が必要」という意見が10件あり、続いて「教師の研修による質の向上が大事」が8件、「道徳教育が必要」と「教師によるいじめもある」といった意見がともに4件ありました。少数意見では、「いじめている方も傷ついている」、「小人数のクラスに編成して欲しい」、「市民レベルのカウンセラー、オンブズマンなどの配置が必要」、「教師が分かっているのに、いじめに対処できないでいる」、「学校に相談しても真剣な対応が見られない」、「福祉問題を素材とした体験学習が必要」、「PTAによる本気の取り組みが必要」、「教育長と語る会は、開かれた学校にするためにすばらしい取り組みだ」、「通学班別の対抗競技会を開催し、子どもたちの団結を強める」、「いじめられたら、先生や親にはっきりと相談する」、「子どものよいところや優れたところをほめる」、「子どもなりの目標を持たせる」、「学校でいじめられている場合、学校に行かせないようにすることが必要」という意見がありました。

◆社会に関する意見

社会に対するご意見で一番多かったのは、「社会的価値観の転換が必要。特に、物を大切にする心、学歴偏重を是正すること、そして異質なものを認める」という意見で、10件ありました。つぎに、「社会的にも生活にもゆとりが必要」が8件、「いじめた子どもの責任を追及し、いじめは犯罪であり、鑑別所などに入れるなど厳罰に処す必要がある」と「いじめは、どんな世代にもある社会現象で、社会全体が悪い」という意見がともに7件ありました。少数意見としては、「社会の制度や構造が悪いという考えが一番有害である。いじめられる側、いじめる側双方の問題に集中し、親や教師に対して介入できる権限のある機関の設置が必要」、「行政の強固な指導を望む」、「人権意識の濫用が原因。いじめは犯罪行為なので加害者の報道が必要」、「社会全体で子育てに取り組む姿勢が必要」、「子どもが自由に遊べる原っぱなどが必要」、「学校だけでなく、地域とのつながりを大切に」、「マスコミ、特にテレビは、子どもに与える影響力が大きいので、思いやりのある子どもが育つような番組づくりをして欲しい」という意見がありました。

また、学校、家庭、社会の3つの分類に入らない意見として、「教師も親も生命の大切さを学び、子どもと接して欲しい」、「いじめられた子ども専門の学校を行政がつくればいい」、「いじめはあるという考えをもっと認識し、総合的に取り組むべき」、「正しい歴史認識が必要」、「新三無主義になっている。地域コミューン的発想が必要」、「幼児期の教育指導者にもっと男性を取り入れて」、「いじめられても、目標を持って強く生きていける自分を確立する」という意見もありました。

21世紀を担う子どもたちのために、
明るい地域社会を築きたい

教育長からのメッセージ

狭山市教育長　野村甚三郎

平成8年4月1日に就任し、第4代目教育長となる

■学校は社会の一部です

私が以前ある中学校の教頭をしていた時に、恐喝事件と言っても言い過ぎではないくらいの事件が起きました。3年生の男子生徒の何人かが、言葉使いが乱暴になったり、反抗的な態度が目立つようになったんですね。調査をしたところ、その子たちの間に封筒が回されているのを発見したんです。それを問いただしたところ、ある強い生徒がお金を取るために回した封筒だったんです。彼らの反抗は、「オレらが金まで取られてこんなに苦しんでいるのに、なんで先生は分かってくれないんだ。」という思いの現れだったんですね。

この事件はもう、犯罪ですよ。社会では絶対に許されるものではありませんよね。学校だって同じなんです。社会で許されないことが、学校で許されるわけがない。学校は社会の一部です。この件について私たちは、早く発見し、正しい対応をしました。当人も親も警察も交えて話し合いました。こんなふうに、子どもが犯罪社会を作ってしまうんです。勇気と、正義を学校に根づかせるためには、先生が毅然（きぜん）とした態度を持たなきゃいかん。体を張って取り組むべきです。

■いじめについて

本人が「いじめられている」という認識を持ったら「いじめ」なんです。周りが、「その位のこと…」と判断してはいけない。「大したことないよ。」なんて絶対言っちゃいけない。本人は真剣に悩んでいるんです。

そして、「いじめは絶対いけない。」という毅然とした態度が親にも、先生にも、子どもにも必要です。いじめる者がいけないんです。先生は、「いじめられたら私が絶対守る。」という気概（きがい）が必要だし、子どもの「先生に話せば大丈夫。」という信頼も得なければなりません。そういう信頼関係が必要なんです。それから、いじめられた子どもへの対応ですが、何でも相談できる窓口が、身近にたくさんあることが大切ですね。例えば、市役所に設置してある、心のふれあい相談室とか、各中学校に配置され始めた、さわやか相談員などの窓口ということですね。

■子育てのなかで

今の子育ても、随分問題がありますね。家庭内で人間としての基本的なことが身に付いていない子どもが多いです。日常的な家庭生活の中で磨いていかなければならない生活体験、自然体験、社会体験ができていない。人間としての感性が未熟なんですよ。「お金はかけるけど、手間暇をかけない。」これではだめです。親が子どもの部屋に入れない家庭が多くなってきています。親は子どもが何をしているのか見えない。いじめられていても、気付かないですよ。それから、子どもに注意を払わなくなってきている。子どもの人権尊重という名目で子育てをしているつもりかもしれないが、人権尊重と、子育ての放棄は違います。そして、家事の手伝いなどの体験もしていないですよね。親の方でもゆとりがないから、子どもに任せ、待ってやる時間がない。それから、少子化などで、子どもがちやほやされ過ぎている。

以前に、いじめに遭って自殺した少年がいました。その子の遺書を読んで、私はとても悲しい思いをするとともに考えさせられました。「何々を買ってもらってよかった。どこどこへ連れていってくれてありがとう。」そういうことが多く書いてありました。そのとき、今、子どもたちが本当に必要としているのは、お金をかけ、物を買ってもらい旅行に連れていってもらうことでなく、本当の意味で自分を受け止めてくれる、自分を理解してくれる、相談できる親であり、家族だと思います。その意味でこういった、親子の希薄な関係を乗り越える努力が必要だと思います。

また、一般的に見て、我慢する力が極度に少ない子が多いです。学校でも家庭でも「豊かな心を持って、たくましく生きる人間」を育てなきゃいけない。もっと、子どもに「生きる力」を付けてあげなきゃいけない。

■教育長として

私は、教育長在任中に、これだけはやらなくちゃいけないと思っていることがあります。それは、『学校が開かれている』という状態にすることです。子どもは学校の人質だ、なんて絶対言われないようにするんです。

具体的には、学校の中に地域の人を入れることです。例えば、地域に調理師さんがいれば、調理体験を話してもらうとか、邦楽が得意な人がいれば、三味線、お琴を弾いてもらうとか。また、部活動の地域講師というのも取り入れています。そして、学校側は、地域の人に「教育力」を提供するんです。相互融合ですよ。

学校の目標は、社会性を身につけさせることと、「子どもを自立させること」だと思います。相手を認めることができて、そのうえで「私は私だ。」と言える、たくましい子どもを育てることです。いじめる子どもは絶対悪い。さらに、「いじめを許さない子どもに育てる努力」も必要ですよね。